

# JST主催「日印大学等フォーラム」 宣言文採択、日・インド間の研究人材交流強化へ

科学技術振興機構(JST)は1月23日、日本とインドの大学長らによる「日印大学等フォーラム」を開催し、インドから9名の学長・副学長、日本の大学関係機関から22名の学長、理事長らが参加した。



橋本理事長(前列左端)、増子文科審(同中央)、マヤンク首席公使(同右から7人目)、日本とインドの大学長ら

由で開かれたインド太平洋」連携へのアプローチを探るものだ。

はじめに、JSTの橋本和仁理事長より開会挨拶があり、「日本とインドは70年を超える長い友好の歴史をもち、『開かれたインド太平洋』連携を構築する極めて重要なパートナーである。そこで、日印の大学、研究機関間の連携をより一層強固なものとするための交友基盤を形成することは極めて重要であると考え、『日印大学等フォーラム』の開催を呼びかけさせて頂いた。本フォーラムにおいて、両国の大学、研究機関がこれまで取り組まれていた交流の成果や知見が共有され、更に交流の発展に向けての議論がなされることを期待している」と述べた。

次に来賓挨拶として、増子宏文部科学審議官と駐日インド大使館のマヤンク・ジョシ主席公使が挨拶。増子文科審は「人的交流は、国と国との相互理解の土台となるものである。日印両国の発展と関係の深化を考えると、更に多くの、そして更に優秀な人材が両国を行き来する。そのような環境が重要であると考えている。本フォーラムを通じ、両国の科学技術や教育分野における人的交流の更なる発展につながる実りある成果が得られることを期待している。また、新型コロナウイルスで停滞した国際交流を再始動して頂きたい」とフォーラムへの期待を述べた。

続いて、日印大学長らによる講演などが行われた後、宣言文が採択された。



**マヤンク首席公使**  
マヤンク首席公使は、日印間の研究・人材交流を一層強化・拡大するための方策として、JSTによる「日本との研究・人材交流に興味のあるインドの大学生等に対し、『さくらサイエンスプログラム』を活用して、日本の大学等で体験する機会を提供する」との提案に、参加者が賛同したことを確認。また、フォーラムの第2回を今後1年程度を目処に開催することとし、JSTが関係機関の協力を得て決定・準備していくことなどをまとめた。

**増子文科審**  
増子文科審は、日印間の研究・人材交流を一層強化・拡大するための方策として、JSTによる「日本との研究・人材交流に興味のあるインドの大学生等に対し、『さくらサイエンスプログラム』を活用して、日本の大学等で体験する機会を提供する」との提案に、参加者が賛同したことを確認。また、フォーラムの第2回を今後1年程度を目処に開催することとし、JSTが関係機関の協力を得て決定・準備していくことなどをまとめた。

**橋本JST理事長**  
橋本JST理事長は、日印間の研究・人材交流を一層強化・拡大するための方策として、JSTによる「日本との研究・人材交流に興味のあるインドの大学生等に対し、『さくらサイエンスプログラム』を活用して、日本の大学等で体験する機会を提供する」との提案に、参加者が賛同したことを確認。また、フォーラムの第2回を今後1年程度を目処に開催することとし、JSTが関係機関の協力を得て決定・準備していくことなどをまとめた。